

H24.3.13 設楽ダム魚類検討会 議事概要

○日 時：平成24年3月13日（火） 14時00分～17時00分

○議事概要：

表 H24.3.13 設楽ダム魚類検討会の議事概要

議事項目	議事内容	報告事項	委員の主な意見	意見に対する回答
1.魚類検討会の経緯について	・魚類検討会の経緯について報告した。	・特になし。	・特になし。	・特になし。
2.野外実験について	・平成23年度における飼育・繁殖の進捗について報告した。	<ul style="list-style-type: none"> 平成23年度繁殖個体のコンディション悪化がみられた。 ネコギギの分散飼育先として施設Aが概ね決定した。 	<ul style="list-style-type: none"> 平成23年度繁殖個体のコンディション悪化の原因を飼育水とした理由は。 	・事務局：消去法で検討し、水質と考えた。
			<ul style="list-style-type: none"> コンディションの問題を病気として想定し、外部の魚病の専門家に診断してもらったのか。 病気であれば今後も発生する可能性もあるため、様々な機関に対し情報を集めて頂きたい。 	・事務局：そのような対応はしていない。
			<ul style="list-style-type: none"> 個体の写真は、不健康そうである。痩せているのではないか。 	・事務局：今後、餌量を増やしていくことを考える。
			<ul style="list-style-type: none"> 今後も健全な稚魚の育成に努めて頂きたい。 	・事務局：今後も異常がみられるようなら、相談しながら対応を協議する。
			<ul style="list-style-type: none"> 今後、魚類検討会委員に状況を見てもらうことも改善に向けた一つの手法と考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 事務局：委員に写真等を見て頂きたい。また、コンディションの悪い個体が放流可能かの判断もして頂きたい。 委員：資料等を送って頂ければ判断する。
・平成24年度以降の放流実験の実施について協議した。	<ul style="list-style-type: none"> 実験淵の生息ポテンシャルが低下したため、実験淵の見直しを行った。 B集団が生息する場所にC集団の個体を放流することを提案した。 	<ul style="list-style-type: none"> 実験淵が生息環境として適さなくなった要因は何か。 	<ul style="list-style-type: none"> 事務局が提案した実験候補淵での放流実験は、概ね了解したが、他に良い淵があるかもしれない。 現在の実験淵も継続して進めていく必要があるが、現状のまま放流を行うのではなく、環境改善を実施して放流することが良い。 	<ul style="list-style-type: none"> 事務局：流速が速くなったことが大きいと考える。 特になし。
		<ul style="list-style-type: none"> シミュレーションを実施して慎重に検討を行うことは良いと思うが、出水時の流速調査については、どのように考えているのか。 	・事務局：シミュレーションは今後実施したい。また、一洪水時分は、実際の流速データを取得したいと考えている。	
		<ul style="list-style-type: none"> 放流実験を実施する場合、どの個体を用いるのか。 	<ul style="list-style-type: none"> 事務局：平成23年度繁殖個体が基本であるが、過年度の繁殖個体も考慮する。 委員：積極的に放流していくことには賛成である。 	
		<ul style="list-style-type: none"> B集団の淵にC集団の個体を放流することは、ほかに手段がないのであれば、実施してみるのが良い。 	・特になし。	

表 H24.3.13 設楽ダム魚類検討会の議事概要

議事項目	議事内容	報告事項	委員の主な意見	意見に対する回答
3.繁殖場実験について	・繁殖場実験計画(案)について報告した。	・野外での実施に向けた繁殖場実験計画(案)を提案した。	・特になし。	・特になし。
4.支川のポテンシャルについて	・愛知県工事への対応について報告した。	・工事箇所状況を報告した。 ・支川Aのモニタリング調査計画を提案した。	・今後、支川Aの工事箇所の環境復元をするためには、どのように進めていくのが重要である。	・事務局：工事後の対応については、今後とも愛知県と調整を図りながら進めていく。疑問点があれば、魚類検討会委員に報告させて頂きたい。
5.モニタリング調査結果について	・既往の成果を踏まえ、豊川流域のネコギギ個体群存続性の検討をした。 ・横穴変動量調査結果を報告した。	・検討の結果、D集団の地点を調査地点として追加することを提案した。 ・横穴の変動に年間で大きな違いはないが、一部の地点で間隙が小さくなる確率が高かった。	・個体群毎の成長度合について、支川Bだけ個体が極端に小さく、成長が遅いのはなぜか。	・事務局：淵の規模、餌の量が関係している可能性がある。
			・大出水があると横穴が減少する傾向があるかもしれない。	・事務局：今後ともデータを蓄積して検証を行う。
6.ダムサイト予定地周辺モニタリング調査について	・今年度実施したダムサイト周辺のモニタリング調査結果を報告した。	・一部の地点で、砂が流出する傾向がみられた。	・緊急保護を行うためには、健全に飼育できる環境が必要であり、そのような環境を整備することが重要である。	・特になし。
7.ダム下流河川について	・既設ダム下流における調査結果から、ネコギギとギギの生息環境の違いについて検討した。	・検討の結果、ネコギギはギギよりも水深がやや浅く、間隙は奥行きがあるが、入口は小さいものを利用する傾向がみられた。	・ギギは懸念材料であり、これ以上増えると問題である。	・事務局：ギギについては、生息する場所がどのような状況であるかを今後とも把握していく。
8.今後の調査・検討計画(案)について	・今後の調査・検討計画(案)について報告した。	・ネコギギ保全に向けた対応方針を提案した。	・特になし。	・特になし。